

歴史とまちづくり活動の経緯

1. 専門家らの視察・調査による住民の気づきによる協議会立ち上げまで

1) 島根県建築士会視察

平成11年島根県建築士会により街並みウォッチングが行われる。このときに専門家の意見により、江津本町の歴史的価値が住民に初めて認識され、歴史的建造物をいかしたまちづくりが始まるきっかけとなった。

2) 神奈川大学西先生との出会い

神奈川大学の建築士研究室の西和夫先生と出会い、実際に研究室の学生を連れて、調査活動がすすめられた。それにより、狭い範囲に歴史ある建物が多く残っているという専門家の視点で大きな価値が示された。

3) 協議会が発足

専門家らの視察・調査などにより、住民によってそれらを上手に保存・活用しようという機運が高まった。平成15年の7月には江津市の指導と、小谷前会長の強力なリーダーシップがあり、住民有志による「本町地区歴史的建造物を活かした町づくり推進協議会」が発足する。

2. 発足後の取組

1) 住民協定の締結と景観形成重点地区に指定

平成17年には対象区域の約9割300世帯と、歴史的な建造物を活かすためにお互いの役割を定めた住民協定を結んだ。またそういった取り組みが身を結び、江津市の景観形成重点地区に設定された。

2) パンフレットの看板の設置やガイドの育成

外から来た人へ、本町の歴史的な建造物を見て回っていただけるように、平成16年2月にマップを作成した。また平成24年には本町地区内に案内看板を設置した。

イベントの実施

平成19年から始まり、地域内外に住む若者と協議会が協力して実施するイベント「ふらり」を継続して実施している。また、地元の神社のお祭りにあわせて参道ビアガーデンも継続して続けている。

3) 歴史的な建物の改修

江津市と協力して、古い建物の改修に着手した。解体を待つだけの建物を、住民の集いの場や、講演会の会場など多目的に使える拠点となった。

4) 個人宅の景観にあわせた改修

江津市と協力して、家の外装の修繕に対し、歴史的な風景に合った形での改修について、補助金が出るようにした。これにより、趣ある街並みの保全に努めている。

5) 中学生の地域学習

江津本町が校区の中学1年生の地域学習を1日かけて行なっている。午前中が住民ガイドと一緒に歴史的建造物を見て回り、午後から若者視点での活用案について協議会のメンバーが意見を聞いている。